

# 第2回 保健医療人教育セミナー

杉谷キャンパス保健医療人教育室

共催：附属病院総合診療部

日時：平成20年3月4日(火)17:30より

場所：臨床第2講義室（附属病院2階）

講師：八森 淳 氏

市立伊東市民病院 臨床研修センター長

「外来・入院・地域生活の連続体で考える  
“地域医療的”アプローチ

～フィールド研究と臨床の相互フィードバック～

具合が悪くなれば病院の外来を受診し、必要があれば入院して治療を行います。これは医療者側から見れば至極当然な事ですが、患者の立場から考えるともう一つ大事な事があります。それは、病院を離れている時間の過ごし方、つまり日常の生活をどのように送るかという事です。患者さんの日常生活にどのように関わっていけば良いのか、効果的な介入のタイミングはいつなのか。これまで行ってきた認知症の地域介入、老健所長としての近況を踏まえながら、外来・入院・地域生活を連続体で考えた場合に、実は分かっているようで分かっていた様々な問題点と、それらの解決手段としてのリサーチについて講演します。

問い合わせ

富山大学杉谷キャンパス保健医療人教育室

担当 立瀬剛志

(内線:7148, メール: tatsuse@med.u-toyama.ac.jp)

## 八森淳先生講演会

3月4日（火）17時30分から第2臨床講義室において、地域医療振興協会でご活躍中の八森淳先生をお迎えし、「入院・外来・地域生活の連続体で考える”地域医療的アプローチ～フィールド研究と臨床の相互フィードバック～」と題してご講演いただきました。

これまでのリサーチデータや具体例を交えつつ、患者中心のアウトカムについて解説をしていただきました。演題にもある「入院・外来・地域生活の連続体で考える医療」とは、日常の生活（家族、地域社会での役割や生きがい等）を基盤としたものであり、大学病院も実践可能なフィールドであること、また社会的インパクトが大きいリサーチテーマが山積しており、こちらの分野でも大学に対する期待が大きいことをご指摘いただきました。講演後、質問が飛び交い、このテーマに対する参加者の関心の高さがうかがえました。



会場からの意見を求める八森先生

